



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第16号

2025年12月19日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

ウィークリーSP活動～11月、12月～

2学期に入り、教員採用試験や教育実習を終えたSPさんが各小中学校でSP活動を再開してくれています。「もう一度活動をスタートしたいのですが、よいでしょうか？」と連絡をもらえると、嬉しくなります。現場で学びたい、子どもたちとじっくり関わりたい、学校現場（授業）のこういう所を見たい、など熱意を持って来てくれる学生さんばかりです。ありがたいことです。

急にぐっと寒くなりました。ニュースでもインフルエンザが猛威をふるっていると聞きます。みなさんも体調に気を付けながら、温かい服装で学校へお越しくださいね。



緒川小 丸山SP→

緒川小の学校視察を通して緒川小のOTに興味を持ち、SP活動を始めてくれた熱意たっぷりのSPさんです。最初はOTの日をめぐらして来校していましたが、「教師の働きかけとして子どもの背景を把握することが大事だと学びました。OTだけでははかりきれないので、通常授業の日もSP活動に参加したいです。追加できますか？」と連絡をくれました。様子を見に行くと、3回目の活動ながらすでに雰囲気バッチリ！子どもたちに表情豊かに寄り添って来ていました。「普通、大学生があんな風に動けないですね。すごいですね。」と現場の先生も声をかけてくださいました。現在4年生。SP活動を通して4月に向けて確実にステップアップをしている素敵なSPさんです。



←東浦中 長谷川SP

大学1年生からわくわく算数教室で活動し、3年生になった今年度の2学期からウィークリーSPとして活動している長谷川SP。「先生になりたい！」「良い授業がしたい！」と熱い想いを抱いたSPさんで、大学でも教職サークルに入って積極的に学んでいます。この日も授業、そして生徒の様子、先生の指導を真剣な眼差しで観察していました。「学び続ける教師」という言葉がよく聞かれますが、“仕事”となると日々の忙しさで目の前のことをこなすのに必死になってしまう時があります。それでも、今持っている熱い想い、そして食欲に学び続ける姿勢を忘れず、「SPの時、こんな風に思っていたな……。」とふと思い出してもらえたら嬉しいなと思います。



←生路小 岡SP

大学3年生になった岡SP、2年生の時に会った時よりも頼もしくなっていました。なにより、支援をしている時の距離感が絶妙！優しく声をかけて、サポートをし、「一人でそろそろできるかな？」というタイミングを見計らってサッと離れます。離れて他の子の支援をしつつ、先ほど声をかけた子の様子もよく見ています。そして、また絶妙な

タイミング（集中が切れそう、出来なくて諦めてしまいそうな瞬間）で戻ってまた声をかけます。「目の前の子が、今、何を必要としているか？」わくわく算数教室やウィークリーSP活動で、考えながら悩みながら培った力だと思います。（もちろん、岡SPの元から持っているセンスも素晴らしいのだと思います。）「今、1回2時間しか活動できていません。子どもたちと関われる時間が限られるので、できればしばらくの間、入るクラスを固定してもらえたらと思うのですが、先生に聞いてみても良いですか？子どもたちとの関係づくりをしたいんです。」と話してくれました。素敵ですよ。「こんな風に活動したい。」「こんな風に子どもたちと関わっていきたい。」という思いを持って活動してくれるSPさん。こんなSPさんが来てくれて嬉しいです。実際にクラスを固定できるかどうか？は学校の先生と要相談ですが、恐らく状況に応じて配慮していただけるのではないかと思います。「未来の先生を育てよう」そんな雰囲気がある東浦町の学校にはあります。だからこそ、多くの学生さんが長く活動を続けてくれるのかな、活動しやすいと思ってくれているのかなと思います。



東浦町では、数か月お休みして再度同じ学校で活動してもらうことも可能です。柔軟に活動できるからこそ、大学生活・プライベート・ボランティア、これらをバランスよくこなせます。ボランティア活動で現場感覚を養うことも大切ですが、それと同じくらい“らしさ”を磨くことも大切にしてもらえたらと思います。旅行、留学、アルバイト、友達との何気ない会話、新しい人との出会いなど、さまざまな経験や出会いがみなさんの武器になります。たくさん楽しみながら、大学生の間にたくさんの武器を装備して魅力たっぷりの先生になってください。

